英語16　まとまりのある内容を話す

＜問題文＞
あなたは、留学生のミン(Ming)と仲良くなるために、一緒にしたいことをクラスの友達と発表し合っています。次はあなたが発表する番です。「ミンと一緒にしたいことを１つ取り上げ」、「なぜそれをしたいのか」を、英語で話しましょう。動画内の【例】を参考にしてもかまいません。【考える時間１分　解答時間 30 秒】

出題の趣旨

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかをみる。

まとまりのある内容を話す際には、話し手として伝えたい内容や順序、聞き手に分かりやすい展開や構成を考え、１つのテーマに沿った発表をしたり、内容に一貫性があるスピーチをしたりすることが重要である。

英語16では、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかを把握するために、留学生と一緒にしたいことを１つ取り上げ、その理由を話す問題とした。

■学習指導要領における目標

話すこと［発表］

イ　日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。

■評価の観点

思考・判断・表現

■学習指導要領に示されている言語活動との関連

話すこと［発表］

(イ)　日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、簡単なスピーチをする活動。

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率（%）	正答
16			（正答の条件） 次の条件を満たして解答している。 条件①　留学生のミンと一緒にしたいことを１つ取り上げて話している。 条件②　条件①の理由を話している。		
		1	条件①、条件②を満たして解答しているもの	36.6	◎
		2	文法事項など※に誤りがあるが、条件①、条件②を満たして解答しているもの	16.9	○
		3	条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	10.9	
		4	条件①を満たし、条件②に関する発話がないもの	5.9	
		5	条件①を満たしていないが、条件②を満たして解答しているもの	6.9	
		6	条件①に関する発話はないが、条件②を満たして解答しているもの	0.4	
		7	条件①、条件②を満たさないで解答しているもの	9.8	
		99	上記以外の解答　（日本語など）	1.2	
		0	無解答	11.3	

※「文法事項など」とは、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを指す

（N= 15,252 人）

２．分析結果と課題

○　正答率は 53.5%である。留学生のミンと一緒にしたいことを１つ取り上げ、その理由を話す本問では、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことに課題がある。他の解答類型と比較すると、誤答の中では解答類型３の反応率が 10.9%、無解答の反応率が 11.3%と高い。

○　平成 31 年度【中学校】話すこと英語 3 では、与えられたテーマについて考えを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかをみるために、海外のテレビ局の要望に応えて、自分の将来の夢、またはやってみたいことを話す問題を出題し、正答率は 45.8%であった。今回の結果から、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことに引き続き課題があると考えられる。

○　解答類型１の例

・I want to play tennis with Ming because it is fun for me to play tennis.
・I want to sing a song with Ming. I like to sing a song with Ming.
・I want to draw pictures with Ming because I like drawing.
・I want to play *karuta* with Ming. He will enjoy Japanese culture.

解答類型１に該当する生徒は、留学生と一緒にしたいこと（条件①）を１つ取り上げ、その理由（条件②）を話すことができている。このことから、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができていると考えられる。

○　解答類型２の例

・I want to play soccer <u>to</u> Ming because Ming and I like soccer.　（前置詞の誤り）
・I want to <u>playing</u> tennis because it is fun.　（動詞の活用の誤り）

解答類型２に該当する生徒は、英語の表現に関して、所有格の誤り、be 動詞の誤り、形容詞の誤り、前置詞の誤り、動詞の活用の誤りなど一部不正確な表現は見られるが、聞き手に伝わる表現で話している。

※解答類型３以降は、語順の誤り、主語の誤り、一般動詞の欠落、内容の矛盾などがあるため、「条件①」または「条件②」あるいはそのどちらも満たしていないとしている。

○　解答類型３の例

・I want to play *karuta* with Ming because it can learn Japanese culture and it is very enjoy.
・I want to play tennis or soccer because I want to sing singing.　（内容の矛盾）
・I want to sing the song with her because I am sing good.

解答類型３に該当する生徒は、留学生のミンと一緒にしたいこと（条件①）を話すことはできているが、その理由（条件②）を話すことはできていない。

○　解答類型４の例

・I want to play tennis and soccer and sing song.
・We want to play soccer with Ming after school.

解答類型４に該当する生徒は、留学生のミンと一緒にしたいこと（条件①）を話すことはできているが、その理由（条件②）に関する発話がない。理由として話す内容が思い浮かばなかった、あるいは話す内容は思い浮かんだが、その内容を表現する英語が思い浮かばなかったと考えられる。

○　解答類型５の例

・I tennis with Ming because it is interesting.
・With Ming play the tennis because I like tennis.

解答類型５に該当する生徒は、留学生のミンと一緒にしたいこと（条件①）を話すことはできていないが、その理由（条件②）を話すことはできている。

○　解答類型６の例

・Because singing is fun.　　・I like music.

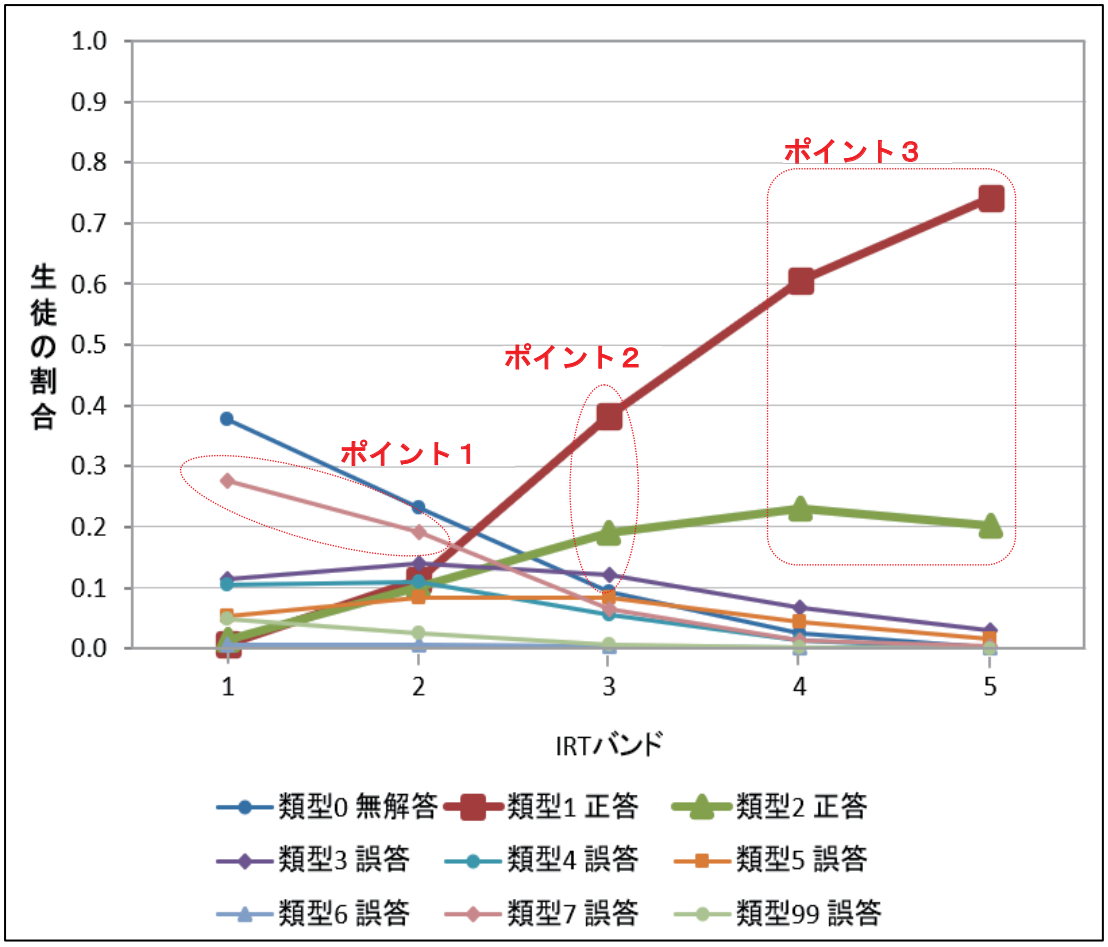
解答類型６に該当する生徒は、留学生のミンと一緒にしたいこと（条件①）に関する発話はないが、その理由（条件②）を話すことはできている。自分の考えを明確に表現することに課題があると考えられる。

○　解答類型７の例

・Want to do is Ming is the *karuta* because is *karuta* Japan culture Ming take.
・I want, I want to music, very interest.　・I eat food because I like.
・To sports because we together fun.　　・I want to tennis.

解答類型７に該当する生徒は、留学生のミンと一緒にしたいこと（条件①）とその理由（条件②）を話すことができていない。音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識などを活用して話すことに課題があると考えられる。

○IRT バンド別類型割合グラフ



○IRT バンド別類型割合グラフから分かること

・ポイント１について

IRT バンド１に属する生徒の２割以上、IRT バンド２に属する生徒の約２割が解答類型７に分類されており、留学生と一緒にしたいこととその理由を話す際に、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識などを活用して話すことに課題があると考えられる。指導に当たっては、「話すこと［やり取り］」を繰り返し、まずは１、２文で話すことから始め、徐々に３、４文とまとまりのある内容を聞き手に伝わる表現で話すことにつなげていくことが考えられる。 【p.137「学習指導に当たって」（１）】

・ポイント２について

IRT バンド３に属する生徒の約６割が正答である解答類型１、２に分類されている。１割以上が誤答である解答類型３に分類されており、理由について何かしらの英語を話してはいるが、コミュニケーションに支障をきたす誤りがある。指導に当たっては、簡単な「話すこと［発表］」の活動を繰り返す中で、言語面での課題がある場合には、ALT に尋ねたり学級全体で共有したりして、聞き手に伝わる表現を用いて話すように指導することが考えられる。 【p.137「学習指導に当たって」（２）】

・ポイント３について

IRT バンド４に属する生徒の８割以上、および IRT バンド５に属する生徒の９割以上が、正答である解答類型１、２に分類されている。このことから、IRT バンド４、５に属する相当数の生徒は、留学生と一緒にしたいことを１つ取り上げ、その理由を話すことができていると考えられる。